
開講科目名：租税法研究演習 1 年（杉浦先生）（4単位）
開設年次：1年
開設学部：法学研究科修士課程法学専攻
担当者：杉浦 勝美

《授業の概要》

1. 授業の概要

○ 1 年次

1 前期

（1）4 月・・・論文作成の基礎知識とゼミの進め方

（2）5 月以降（判例研究の実施）

A 研究レポートの作成及び発表を順番に実施・・・議論が深まるよう事前のレポート提出とそれに対する質問事項の整理を励行、2 回目（レビュー）は関連する論文をいくつか引用し自分の考え方が生成できるよう訓練する。

B 夏休み中は論文を読み要約作成と評価を行う。（宿題と自主ゼミ）

C 合同ゼミに向けての準備を行う。

2 後期

（1）合同ゼミ等の実施

（2）10 月以降（判例研究の実施）

前期の経験を踏まえ「小論文」形式にする。

テーマは予定している論文のテーマに近いものにする。

（3）3 月中に論文テーマ及び作業スケジュールを提出する。

○ 2 年次

1 年次に実施した判例研究等を通じ、最も興味を持った事項を論文作成のテーマとし具体的な作業を進める。（3 月までに論文テーマ及びスケジュール策定）

ゼミを通じて疑問点や進捗状況等を話し合うことにより目標達成に向けてのモチベーションを維持するほか、情報の交換を通じて効率的な作業に資することとする。

（1）4 月から 7 月・・・論文の作成方針、必要な資料収集の実施状況の発表と評価。

論文の中心となるところから書き始め、それぞれに対する意見交換と評価を実施する。

（2）夏休み・・・自主ゼミを実施し、進捗のばらつきを防ぐとともに論文を全体的な形にする。

（3）9 月から 10 月・・・整合性及び論理展開チェック

（4）10 月末・・・初稿完成

（5）11 月から 12 月中旬・・・論文精査とゼミ生による読み合わせチェック

（6）期限までに提出

2. 評価方法

ゼミへの出席と参加態度、レポート期限の遵守、内容による。

《参考書》

木山泰嗣『税務判例を読もう！』（ぎょうせい・2014年）

伊藤義一『税法の読み方 判例の見方〔改定第三版〕』（TKC 出版・2014年）